

【静岡サレジオ幼稚園】

●2022. 11. 24 ふりかえり(スタッフ 7 名)

ちかりん:今日はありがとうございました。自然のもので遊ぶってということと、すぐに袋に入れないでっていうことをやりましたが、皆さんいかがでしたでしょうか。そののねういに対しての成果と、こんなアプローチをしたとか、こんな流れでやったらよかったよっていうことがあったら教えてください。あと改善案かな。

ひろじい:はい、えっとね、子ども達も結構色々見つけてね。で、先生なんかもミミズ見つけたり、それをまたみんなで共有して。それからクモを見つけた子がいてね。で、そのクモをみんなで観察しようってことで観察ケースに入れてみたりね。今日は食べるものがダメってことで、冬イチゴを食べさせてあげられなかったのがちょっと残念でしたけどね。先生も食べたことがないからって、じゃ、先生がちょこっと味見してみたらって言って、味わってもらいました。遊ぶっていうよりも、なんか色々見つけるんですよね。見つけるのがもう次から次と見つけるから。ま、それが遊びっちゃ遊びなんだ。あとは、先生にこれやると面白いよっていうのは説明しましたけどね。子ども達には言わないで。先生には、幼稚園に帰ったらこういってことで遊んでみてっていうことで話しました。虫食いの葉っぱでお星様をやろうって幻想みたいにしてやったんだけど、それをね、横で聞いてた子がいてね。それを覚えてて園に帰ったら先生とやるって言ってました。

じゅんじゅん:はい、最初に五感を使って、栗の葉っぱでちょっと匂いを嗅いでみようっていうのでやってみて、その後私がちょっと葉っぱをこすり合わせて音が出るよっていうのをやって気づかせて。なんかすごくその音に反応して、子ども達がその後いろんなところ行くと、「この葉っぱ音するかな?」とかっていうのをやったり、あと、ちぎると音がするよとかっていうのを見つけて。で、最後にちぎったらパラパラってやると、雪みたいに、吹雪みたいになるよ、とかっていうのをやりました。なんかこっちが五感のことを投げかけたことにすごく反応してくれたなっていうのを思いました。

あと、アメリカセンダングサとか、くつつくので、顔の模様をつけてみようとかっていうのをやったり。あと実で子どもが花火っていうのやったり、素材の形とかを見て、想像するみたいな遊びを結構やっていましたね。あと最後にグーチョキパーをちょっと探してみましようってこちらから提案したのをやって。ただもうね、最後の最後になったらちょっと飽きちゃってる子がいたりね、逆にちょっとこう大変な子がいたんだけど、最後になって先生ほこれ触ると柔らかい触るとざらざらってっていうの言ってきてくれたりして、なんかすごく集中に差はあるかなーと思いました。

まーくん:まず、みんな何か遊びを探そうっていう投げかけをしていったのですが、なかなか難しいですね。色々興味をこう引くことがたくさんあるのかな。で、まず石をひっくり返して、ダンゴムシ取ってね。で、ダンゴムシをみんなで観察ケースで大きくして見たんですよ。それで、初め丸いんだけど、それがこう広がってね。それを見たりして「わーっ」ってもう触りたくなっちゃいましてね。で、もう逃そうねって逃したんですけども。あとはね、クモの巣があったから、ちっちゃい葉っぱを投げて引っかかるでしょ、それ面白がってね。私がこれはちょっと教えてあげようかなって思うことはあるんだけど、なかなか、そこまで引っ張るに大変でね。色々、その間にあれやこれや見つけてくれたりしながら、なるべくその子どもの見つけたものを大事にね。みんなで見たりしながら、歩いていきました。で、1 つだけ、最近の十八番になっちゃってるけど、ベニバナボロギクをちょっとみんなに渡してね、美容院行っただけになってちょっとやってごらんって、頭の毛はこうやるんだけど、それを逆にしてね、こうやるとスカートになるよとかね、そういう風な発想をして、遊んでくれた子もいました。で、やっぱりあの子どもってというのは動きたがっちゃうのかな。どうしても登りたくなっちゃってね。行きたい、行きたいっていうもんだから、「それ行けー」ってみんなで行ってね、それからもう山の中で遊んでました。木登りはやりたくても今日は滑べるからダメだよって言ったかな。今日はなかなかね、宝物を集めるというよりも、遊んじゃったかな。



まこ:今日は初めの時に、「これ、私のお気に入りだよ」って見せて、触ってもらったり匂いを嗅いでもらったりしたんですけど、とりあえず、「ここにある葉っぱ集めてみようか」って言って、ちょっと黒い布の上にみんな好きなものを集めてきて、「こんだけあるね」って言って、どんな違いがあるかなってそこからスタートして、そこでもうこれが好きとかあったんですよ。この丸いのが好きとか、この色が1つの葉っぱなのに、黄色い分部分と緑の部分があるとか。すごいそこで言ってくれて、で、そこからスタートしたので、割となんか遊びに繋げるまでいかない。なんか発見が多くて、これ見て、これ見てっていう感じだったので、なかなかこう遊びに繋げるのが難しかったなって感じで、もう言われるがままに見つけたところに行って、みんなで見合って、「あっざらざらしてるね」とか、「あ、ちょっとこれ丸めると何になるかな?」とか言ってやって、プレスレットとかつけて、「じゃあ向こうに違う種類のがあった」って覚えてる子が取りに行ったりとかして、とにかくもう見つけたものをみんなで共有するって感じでした。

で、実がくつつくのがやっぱりみんな気になって、はじめは「いやだー」って言ってたけど、投げっこして遊んだので楽しくなって、じゃ、今度は実を集めようってことになって、「おっ、

すすきも実だね」って言って、ちょっとほぐして遊んだり、いろんな実をほぐして、「これも実なんだね」っていうのをみんなで話して。で、「葉っぱをお皿にしたら、ちょっとご飯みたいじゃない？」って言うと、「じゃ、このピンクのもほぐしてみよう。」とか言ってイヌタデとかもほぐしたり、ちょっとそこだけ広がったかなって感じで。あとは、ちょっとトンネル入って、「お手紙を知ってる」って言ってたので、「お手紙やってみる？」って言ったらやりたいって子がいたので、お手紙で最後は終わったんですけど、新しい遊びが子ども発信で出たかっていうと、そんなになかったかな。みんな見つけるのはうまいけど、うまく広げてあげられなかったなっていうのがあります。でも、なんかみんな「帰りたくない」って言ってたので、それは「また来てね」って言って「また来て色々探してみてね」って終わりました。はい、以上です。

こばちゃん:最初にどこから入っていったらいいのかなっていうことで、目についたのはちょうど雨上がりの中で、クモの巣がすごい綺麗だったんです。それと、葉っぱが結構クモの巣についてたんですよね。「あ、これを子どもたちが気づいてくれればいいじゃないか」なんていう風なことと、あとカヤの実が落ちてたりしているから、そんなところにももし気がついたら、このカヤの実で何か遊びができるんじゃないかって。そんな風なことを考えながら、子どもたちと出会ったんですけど。五感を通してっていうことで、最初にやっぱり葉っぱを 1 つ見せて子どもたちに匂いを嗅がせたら、あんまり匂いがしないとかって言うんで、「じゃあ、もっと匂いをかぐには、どうしたらいいかな？」なんて言ったら、「くちゃくちゃする」って誰か言ったもので、くちゃくちゃして匂い嗅いだら、それすごい臭かったんですよ。「いや～臭い臭い」っていう風なところから始まった。「じゃあ、ちょっと静かにしてみよう」って、「何か匂いがする物あるかな」って言ったら、「こうやってしたら、森の匂いがする」とかさ、そうするとやっぱり草の匂いがする。結構この子ども達って、感性豊かなのかななんて思っ



話をしてる間に、女の子が一人、「あれ何これ？」ってちょっと黄色っぽい葉っぱがあったから、「え、こんな葉っぱあるんだ？」っていう形で、そうしたら結構あそこにも、あそこにもあるって言って。だから「そおっと持ってよ」って言って、葉っぱじゃんけん始めたんですよ。「黄色い葉っぱ黄色い葉っぱ誰が1番黄色いか？じゃんけんぽい！」って言ってこう見せてあげたら、やっぱり色が違うんだよね。半

分緑っぱいのとか。そういう形で宝物見つけたら、それを手掛かりにして、見方とか、手触りとか気づかせていけばいいかなと思って。あとは「小さい葉っぱをじゃあやろう」って小さい葉っぱとか見つけたり。それで面白かったのは、「曲がった葉っぱ」って、上向いてるあの曲がったものとか、横に向いてるとか、あとは大きい葉っぱとか、穴の開いた葉っぱとかって。

あとはクモの巣があって、ある男の子がさっき見つけた大きな葉っぱをうちわにして仰ぎ始めたんですよ。そしたら上手く行かないから、また 2 人目が出てきて、「じゃあみんなで作ってみよう！」なんていう形で。子どもたちには受けたりして。あとはクモの巣に葉っぱがついてたんでね、「じゃあ、本当につくかどうか」って、葉っぱを投げて「あ、ついたついた」とかね。あとはカヤの実があって、それを拾ったらちょっと匂いがあるとか。あとはあそこにちょっと段差があって、ある子がちょっと蹴っ飛ばしたら実が転がったんですよ。それで俺が「じゃあ、みんな転がしてみよう」なんて言ったら、ころころころころっていう風な形で、見つけながらも、そういう遊びっていうか。あとはキノコがあって、「キノコを触ったらどうなるか」って聞いたら「本当はこれ硬いんだよ！」って言って、だけど触った時にほら雨降ったばかりだから、「むにゅむにゅしてる」とか。あとはあの上に蔓みたいなのがあって、それをちょっと揺すったあげたら子どもたちも喜んで、バサバサやったら雨が落ちたりして、私にも向けてバシャバシャやって、これも 1 つの面白い遊びだなと思ってそんな風な形でまあ、1 時間過ごしましたけども。それでも最後になんか先生が「私も楽しませてもらいました」って言ってくれました。

トッキー(ちかりんのサポート): はい。えーっとですね、黄色チームはとにかく最初のほうで、葉っぱで結構たくさん遊びをやって。で、結構見立て遊びみたいなのが盛んになってたかなと思います。最初にやったのは、なんかのおっきいいろんな色があるマユミっていうの。黄色があつたり、赤があつたり、茶色があつたりで。形も大きいし、まあ、ちっちゃいのもあつたりするので、それでなんか、見立て遊びがちょっと始まって、「なんかこれを折り曲げたらバナナに見える」とか、「こっちは餃子」あと「ポテチ。ちっちゃい、黄色い薄い黄色と丸い形がポテチ。」なんかそんな見立て遊びが始まって、そこから結構葉っぱの観察が盛んになったなという風に思いました。僕はちょっとここで、なんかちょうどなんか細長いのが 2 つ重なってるのを見つけたんで、「あ、ちょっとキツネみたいだな」と思って、ちょっとそれをポンって画用紙の上に置いといたら、「あ、キツネがいるから、胴体を僕が作ってあげる」って子が出てきて、なんかそれで多分その子は意識せずやってたと思うんですけど、ちゃんと同じ色の葉っぱを見つけてきてくれて、胴体を作ってるのはなんかすごいなと思って。そしたら、「象を作りたい」とか、「鳥を作りたい」っていう、落ち葉で何か色々作れるなって、遊びに発展してくれたかなと思います。あとは、本当に葉っぱの観察とかがどんどん深くなっていった、三つ葉みたいな形の葉っぱを見つけたって言われて、「あ、これはなんか 3 つある」「こっちは 4 つある」みたいな発見があって。僕は全然気づいてなかったですけど、ある子が「3 階建てになってる」って、それを見て、「なんか上の方がちっちゃくなってる」って、まあその子は特別観察力が飛び抜けてた子なんですけど、そういう発見というか、その「3 階建ての草だ」みたいなことを言って、ああ、そういうのも遊びになるんだなと思って、ちょっとそれは勉強になりましたね。結構回したりすると楽しいみたいなことにも気づいて、こうくるくる回して遊んでいる子もいました。あと、なんか落ちてる枝で、こうちょっと擦られた後みたいのがある

枝だったんですよ。ただの枝なんですけど、「これは何かがかじった痕だ！」ってその子は言って、「こっちが森だから、森から出てきたのがかじったんだ」って。で、まあ、僕とその近くにいた子が観察してて、「でもちょっとしかかじってないね。あんま美味しくなかったのかな。」みたいな話をしてて、「きっと、この上にクモか何かがいる、それを食べた時に一緒にかじられたんだ。」ってその子言うんですよ。触ってみたら「ベタベタしてる。よだれに違いない。」って、なんていうか、言葉の飛び出しているか、推理力というか。その枝 1 個でそこまで想像できるのがすごいと思いました。

ちかりん: 向こうのそのまゆみの葉っぱがすごい、やっぱり目を引くので。まずそこで分かりやすいところからなんか遊びができるかなって。で、だんだんこっちへ来ながら、最後クモの巣とかあったので、あんまり好きじゃないと思うんだけど、近づきになれるといいなみたいな感じで。ヒサカキの実とかも手が届くところにある、ムクの実とかアオキの実とかもあったので、そんなのをちょっと探しながら「色んな色があるねー」みたいな感じで。クモもね、綺麗な色だし、色探してみたいな感じでいけたらいいなと思って始めました。

でも、それを幼稚園やその周りで応用できるっていう風になると、やっぱり遊木の森って色々あるから楽しいじゃん。それに比べるとやっぱり難しいなって思って。で、例えば「色を集める」とか「大きさを比べる」とか。ちょっとそういうこう大枠っていうかね。そういう風に捉えると、どこでもできるのかなって思って、それを意識しながらやりました。そしたら、なんか去年のあの苦労がなんだったのかっていうぐらい、子どもたちが、マユミの葉っぱなんかもう何にも言わなくても、こう 2 つにこうなってるのを、「中になんか入れたら餃子だ。」って言うてくる子がいて。それがね、薄～いなんていうかな、クリーム色みたいな。本当、餃子の皮みたいな。「いや、すごいな」と思って、もうね、何にもしなくても、そっからいろんなポテチも出てきたし、そしたら、パセリみたいな葉っぱがあって。これを、なんか匂いを嗅いで、なんかこれをかけてみようとか、なんかいろんな発想が子どもたちから始まりました。

もう、集まって「五感の話しよう」って、「ミミズがいた」だの「栗のイガがあった」のって、ちょっと落ち着きがないっていうか。うん、すごくて。でも、子どもたちが見つけたものから、例えばあの栗のイガも「痛い」って言ったけど、実際触ったら「痛くない」とか、「うん、気持ちいい」とか、「でも、僕は痛い」とかっていうところから話が進められたので、すごくやりやすかったですね。だけど、やっぱりよく見るとかっていうのは、すごい好きだったよね。こう、匂いを嗅ぐとか。だけど、そこから遊びっていうのがやっぱりなかなか難しくって、でも、よく観察していっぱい発見するのもすごい遊びだし、その発見力があればどこでも、幼稚園の園庭でも「こんなのがあった」とか、「ふわふわがあった」とか、そんなのでもいいんじゃないかな、なんて思っていました。

で、途中で色々あったんだけど、さっきの葉っぱをね、その 3 つの葉っぱがあったり、4 つの葉っぱがあったりした時に。それ全然狙ってなかったんだけど、なんだったかな。それをこう見比べて、ちょっと私回したんだったかな。そしたら、あの女の子たちがその回すという

のが面白かったらしくて。くるん、くるん、くるん、くるん回して、「これはどう？」って言って。男の子たちも他の葉っぱも見て、持ってきて、三つ葉も、だから、いろんな三つ葉があったわけ。「あっ、こっち大きいね」とかってくるくる回して、で 4 つのも回して。で、子どもは別にそれだけだけど、先生にも回してもらって、「これとこれと回して」って言ったら「こっちはするする回るけど、こっちはなんか引っかかる」っていうので、じゃあって言って、その断面も先生に虫めがねで見てもらったら、「こっちは丸で、こっちは四角」ってやつも気が付いてくれて、「ああっ！」て先生が言って、なんか先生も一生懸命子どもにそれを伝えようとしてくれて、子どもも一生懸命虫めがねでそんなのを見て。そしたら子どもは、「こっちは スルスルメリーゴーランド」こっちはなんつったかな、「ゴロゴロメリーゴーランド」だからなんとかって言って、名前をつけてやってましたね。そういう単純でシンプルなところから、いろ



んな発見があるのかな、なんて思いました。なんか「アオキでいっぱい遊べるかな」とか色々考えてたんだけど、あんまりそういうこともなく、子どもたちが次から次へと発見して。で、長いのは「ブレスレットがいいんじゃない？」とか、「指輪にして」とか言うてくる子がいたりする。うん、そうですね、「どこでもやってくれるといいな一」と思って、振り返りで「どう？幼稚園に行っても、周りでもできるんじゃない？」と言っ

たら、「できな一い」って。「ええ～、なんでかな？」なんて。でも今日は五感の話をして、「色々触って、で見つけたの何？」って言うと、どんどん言うよね、「ふわふわがあった」とか、「なんかこんなのがあった」とかって。「ほらほら、だから大丈夫だよ、きっとあるよ。」って言って終わりましたけどね。はい、なんかどんな遊びが幼稚園に帰ってからまた生まれてるか楽しみです。

ちょっとね、トイレから遠かったのが難点だった。もうそれはね、先生が何往復もしたりとか、それを待ってたりとかして、ちょっと時間のロスがあったなって。

こばちゃん:結構子どもの発想ってね、4 歳児も面白いなって思ってさ。ほら、丸い葉っぱを見つけようっていう中で、男の子が 1 人、最後に出したのは細長い葉っぱで丸めて、「はい、これ丸い葉っぱだよ」って。先生もちょっと感心してたけどね。だけど、みんなは「ふーん」なんて言って。

ちかりん:面白いよねー。

こばちゃん:だけど、今 1 番ほんとマユミがいいね。この前来た時はね全然あれじゃなかったけど。本当に色が色んな鮮やかな色で。

じゅんじゅん:あそこの崖をのぼっていきました？入口の。

ちかりん:そう。すぐのところ。

じゅんじゅん:私ね、無理かもな、どうかなって思って

ちかりん:私は結構やらせちゃうかな。

じゅんじゅん:今度やらせてみよう。

ちかりん:あの溝もね。1 回下に降りて登って、なるべく手を出さないで。うん、自分たちで行かせますね。

—ありがとうございました。—